



# 地域ふくし担い手の集い記録

開催日 2013 年 11 月 29 日 (土) 13:30~16:00



場所 大和の家

精華町では第 2 次地域福祉計画の策定を進めています。

この計画に、住民の声を届けるために、川西ふれあいネットワークが主催して「地域ふくし担い手の集い」が行われました。地域ふくし活動に関わる 46 名の担い手の方が（ふれあいネットワークメンバーを含む）が参加しました。



## プログラム



13:30 開会  
代表挨拶、趣旨説明

13:50 第 1 部 活動報告  
・キャラバンメイトによる認知症普及啓発  
・介護者の会「なでしこ」  
・精華町災害時要配慮者登録制度

14:30 第 2 部 意見交換  
・2 つのテーマで意見交換

15:30 発表まとめ

16:00 閉会の挨拶

第 1 部は、地域における認知症予防や緊急災害時の要援護者支援の課題に基づき、3 つの活動報告が行われました。

第 2 部は、その活動報告を受けて、「地域ぐるみの認知症予防」と「地域ぐるみの災害時要配慮者支援」のテーマで、6 班に分かれて語り合いました。

# 地域福祉計画づくりにあなたの声を



## 1 班

## テーマ：地域ぐるみの認知症予防

### 問題点

#### ①対象者の発掘が難しい

- ・地域の対象者をどのように発見し、把握するか
- ・リスト管理は誰がするのか
- ・日常的に地域の様子を気にかけて、声かけをする
- ・家族からの相談を聞く



### 解決策

- ・地域におけるコミュニケーション（行事で声かけ等）
- ・地域住民の情報協力（携帯のホワイトボード等）
- ・認知症に関する無記名アンケート調査・分析の実施
- ・認知症サポーターを育成

#### ②地域に知られたくない本人・家族の気持ちがある

- ・認知症であることを打ち明けられない
- ・家族が認知症だと認めたくない世帯がある
- ・自身が認知症と気づいていない方への対応も必要



- ・認知症についての勉強会を開催（福祉教育）
- ・認知症への偏見をなくす
- ・こまめに訪問し、家族と親しくなる

#### ③対象者の介護負担が大きい

- ・一人で認知症を支える家族の負担が大きい
- ・家族の介護負担から虐待につながる
- ・介護者が要介護者の近くにいない、一緒に暮らしていない



- ・福祉や医療制度などを民生委員から家族へ伝える
- ・早期発見の健康診断を勧める
- ・専門職や介護経験者との連携（アドバイス等を受ける）



2 班

テーマ：地域ぐるみの認知症予防

問題点

解決策

① 認知症の方を把握することが難しい

- ・地域で認知症の方の把握ができていない
- ・相談や問合せはどこにするのか知られていない
- ・認知症で困っている方の把握がしにくい



- ・専門職や介護者家族に老人会やふれあいサロンの集いにきて話をしてもらい、学習する、知る

② 認知症の気づきが必要

- ・予防のための知識はどこで得たらよいか
- ・認知症でも色々ある
- ・認知症の気づき項目を知らない



- ・認知症予防講座を実施しよう

③ 家族の認識づくり

- ・認知症を抱えた家族の増加
- ・家で介護は無理と思い、すぐに施設へ入れてしまう
- ・認知症を知られたくない家族もある



- ・家族と話し合い、心の雪解けを根気よくさぐる
- ・キャラバンメイトの方がサポーターを増やす事業を展開する

④ 地域でのかかわり方

- ・徘徊者や認知症予備軍の増加
- ・認知症を異端視する傾向がある
- ・地域でどのように受け入れるのかみえていない



- ・認知症をいかにして正しく知ってもらおうか
- ・啓発パンフの作成やアンケート配布、回収

3 班

テーマ：地域ぐるみの認知症予防

問題点

解決策

① 認知症の方の把握するのが難しい

- ・独居の方で近所づきあいが無い、挨拶が少ない方がいる
- ・高齢化による歩行困難から出不精になる
- ・最近気になる行動の人が居る（物忘れがひどい、怒りっぽい、徘徊する、話が止まらない等）



- ・地域全員が認知症サポーターを目指す
- ・以前興味があった趣味（歌やグランドゴルフ等）などを活かして声かけして誘う
- ・家族、地域が一緒になって認知症を共有して助ける

② 認知症について情報の共有ができていない

- ・予防の方法がわからない
- ・地域の認知症サポーターが誰かわからない
- ・認知症が理解できていない人がいる



- ・世代を越えて理解できる場を作る
- ・地域で認知症について一般向けの研修会を実施する
- ・地域全体で丁寧な声かけをして情報を集める

③ 地域でのかかわり方が難しい

- ・誘い出してあげる手がかりが見つからない
- ・認知症になっているのか判断に困る
- ・個人情報流出を重視しすぎ連絡が取りにくい
- ・認知症に対するタブーの言葉やマナーがわからない



- ・日ごろから近所づきあいを大切にし、家族の様子を知ってもらって助け合う心をはたかせるようにする
- ・認知症は特別なことではないという意識を持ち、チームを作って関わる



# 地域福祉計画づくりにあなたの声を

4 班

テーマ：地域ぐるみの災害時要配慮者支援

## 問題点

### ①要配慮者の把握ができない

- ・要配慮者である独居高齢者が多くなっている
- ・地域の災害時要配慮者リストが共有できていない
- ・隣近所の人を知らないため、助け合うことが困難

### ②災害時の支援体制ができていない

- ・災害時のリーダーがいない
- ・自治会で災害時の支援体制ができていない
- ・自主防犯の役員には高齢者が多い

### ③安全な避難場所が十分でない

- ・避難場所の不足、避難場所までの距離が遠い
- ・独居の障がい者、高齢者の搬送支援が難しい
- ・地域の自主防災の訓練や話し合いが出来ていない

## 解決策

### 隣組での情報の話しをする隣組の助け合い

#### ▼自助（自分がすること）

- ・日頃から災害時に助けてもらう人を作っておく。隣の方を見れば挨拶を笑顔でする。

#### ▼共助（川西ふれあいネットワークをはじめ地域ですること）

- ・地域の活動に積極的に参加してなじみを作る

#### ▼公助（精華町行政がすること）

- ・災害時要配慮者登録の申請の推進
- ・制度の広報等の徹底

5 班

テーマ：地域ぐるみの災害時要配慮者支援

## 問題点

### ①要配慮者が把握できていない

- ・要配慮者がどこに住んでいるのかわからない
- ・高齢者のみの家族、又は独居の方が増えている

### ②地域で避難対策がない

- ・高齢の住民が多く、体力がないので即対応できない
- ・連絡網の作成が必要
- ・災害時の避難計画に基づき、一人世帯、要介護者等の避難の手伝いが必要

### ③地域の実態が把握できていない

- ・災害への備えが不足している
- ・災害時の避難場所も決まっていない
- ・道が狭く坂道が多いので、車いすなどは困難

## 解決策

### ●地域実態調査

- ・気軽に声掛けのできる仲の良い自治会をつくる
- ・町行政と自治会で要配慮者の実態調査をする

### ●災害非難マニュアルの作成

- ・住民意識を高め、災害非難マニュアルを作って配る
- ・少なくとも隣人には声をかける
- ・若い人の連絡先を調べ、自主防災組織にも頼る
- ・災害マニュアルの早期実現（行政・地域）

### ●地域の実態報告

- ・地域ぐるみの避難計画を作る
- ・計画的に道を広げ、空き地を局所に作る





6班

テーマ：地域ぐるみの災害時要配慮者支援

問題点

① 高齢化の把握ができていない

- ・ 高齢独居者が増えている
- ・ 高齢者世帯が多く、緊急時に家族へ連絡できない

② 要配慮者が把握できていない

- ・ 支援者がはっきり見えない
- ・ 発生時の役割分担が決まっていない
- ・ 地区集会所が耐震構造になっていない

③ 情報の共有ができていない

- ・ 要配慮者の情報が入手できない
- ・ 避難時の連絡方法はどうかっているのか
- ・ 世間体を気にしてか遠慮がある
- ・ 避難所までの逃げ道の確認と確保

解決策

▼個人がすること

- ・ 自治会や各種グループへの入会をうながす
- ・ みんなに知ってもらう勇気を持つ
- ・ 元気でも一般的には高齢と認識する事
- ・ 日頃から近所と会話しコミュニケーションをとる

▼組織（自治会）がすること

- ・ 役場、自治会、民生委員等の情報共有化と協力
- ・ 地域登録を細分化し、常に連絡を取り合う
- ・ 地域ぐるみで講習、講演等行い周知する
- ・ 発生時の避難経路の図形化
- ・ 日常の支援とネットワーク
- ・ 地区集会所の早急なる耐震化工事



# アンケート結果

## 問1 ご自身のことについてお答えください

### ★性別

| 全体   | 男性    | 女性    | 不明    |
|------|-------|-------|-------|
| 31人  | 14人   | 12人   | 5人    |
| 100% | 45.2% | 38.7% | 16.1% |



### ★年齢

| 全体   | 20歳代以下 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代  | 60歳代  | 70歳代以上 |
|------|--------|------|------|-------|-------|--------|
| 31人  | 0人     | 0人   | 1人   | 4人    | 14人   | 12人    |
| 100% | 0%     | 0%   | 3.2% | 12.9% | 45.2% | 38.7%  |

### ★小学校区

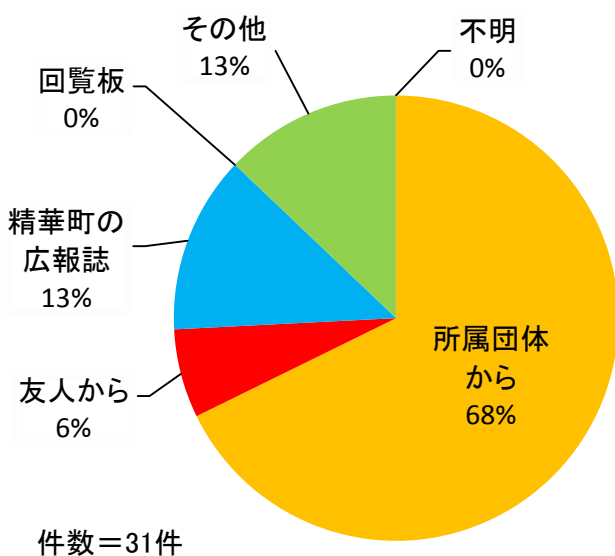
| 全体   | 精華北小  | 川西小   | その他  |
|------|-------|-------|------|
| 31人  | 8人    | 22人   | 1人   |
| 100% | 25.8% | 71.0% | 3.2% |



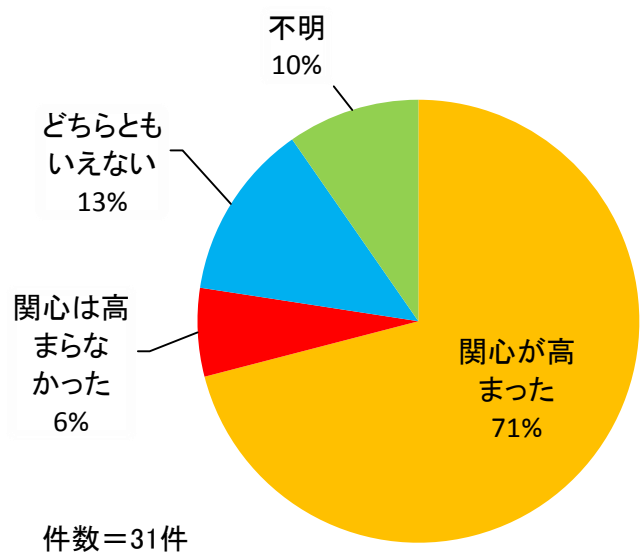
### ★地域活動に関わる活動をされていますか（複数回答）

| 全体  | 子育て支援<br>関連 | 高齢者福祉<br>関係 | 障がい者福祉<br>関係 | その他<br>(自治会等) | 特に活動<br>していない |
|-----|-------------|-------------|--------------|---------------|---------------|
| 45件 | 6件          | 13件         | 4件           | 18件           | 4件            |

## 問2 地域ふくし担い手の集いを どこで聞かれましたか

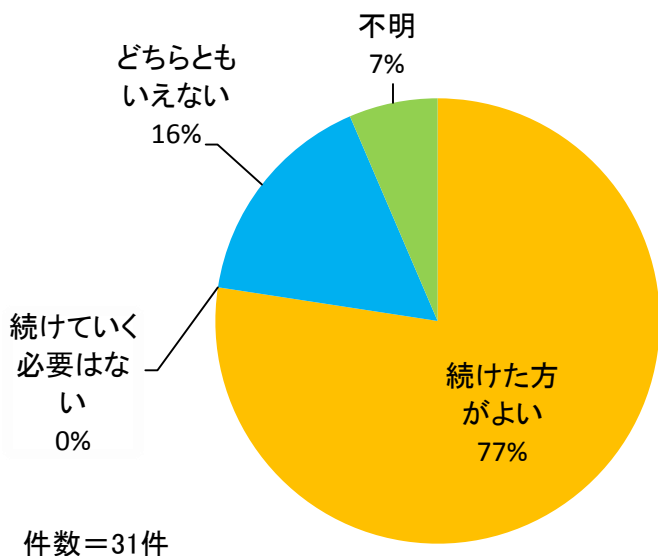


## 問3 地域福祉の取り組みに 関心が高まりましたか





**問4** 地域ふくし担い手の集いについてどのように思われますか



★「続けた方がよい」と答えた人の理由

- ・細かい積み重ねが活動浸透の要となるため。
- ・参加した私自身が未だにスタートラインにも立てていないので。
- ・高齢者が多くなり、子どもが少なくなる年齢構成になってきている。
- ・高齢者社会に互助精神は欠かせないと思う。
- ・今後、高齢者が多くなるので若い方に担い手を受け継いでほしい。
- ・自治会組織をいかして詳細をつかむ。
- ・自身も高齢になり地域とのかかわりが大事。
- ・自分の住んでいる地域の情報は、コミュニティ力を高めるために大切。
- ・人の意見交流がとても参考になる。
- ・他地域の活動情報がお互い得られ、今後の参考になる。
- ・地域の力の大きさを自覚するいい機会。
- ・問題提起と解決策を探るため。

**問5** 地域ふくし担い手の集いの感想など、自由にお書きください

- ・参加者が熱心で驚きました。考えもまとめやすく、いい勉強になりました。
- ・みんなの声が大事です。
- ・意見交換は、大変濃い時間になりました。
- ・回を重ねるごとに、ふくし担い手の集いの内容面が深まっていこうと考えます。
- ・各種団体の話合の場をもっと広げていけば、活動ももっといきいきとしたふれあいの場になるのではないかと。
- ・自治会長及び同等の役の方の出席が少ない。又、自治会によっては1年限りの回転になるので、各地域の継続性をはかることも大切では。
- ・地域ぐるみの活動が何にも勝ると思います。
- ・地球規模で異常現象も多く、何が起こるか分からない時代。(例：フィリピンの最大瞬間風速90m、犠牲者1万人、台風被災者950万人等) 台風だけに限らず地震も…いつか日本に。日頃の地域力で、効果はともかく心の連帯、相互互助の精神だけでもこの校区及び、せいか地域福祉、COMで確立、実践させたい。
- ・年二回、テーマ別に開催する。

